

金本知憲氏講演会

スポーツに 人生を学ぼう

～金本知憲が語るその歩みと努力～

2015年9月13日(日)大阪人間科学大学にて、理学療法学科の開設を記念した金本知憲氏による特別講演を実施しました。当日は理学療法士を志す高校生をはじめ地域から500名以上の方にお越しいただきました。

現役時代「鉄人」と呼ばれ、何があっても試合に出続けた金本氏。それを支えた強靱な肉体と精神はいかにしてつくられたのか。その歩みと努力、熱き野球への思いを語っていただきました。



金本知憲氏
元プロ野球選手。現在は野球解説者・評論家として活躍。

金本氏…あのときの僕の肩は分りやすく言うと、腱が切れて肉離れをおこしていて関節も脱臼していましたね。

金山氏…その状態では、日常生活も辛かったんじゃないですか。

金本氏…日常生活はとにかく苦勞しました。食事や車の運転など生活はすべて利き手ではない左手を使っていましたから。

金山氏…大変な状態だったんですね。

金本氏…肩の筋肉の肉離れと内出血が酷くてMRI画像をみると、肩がぐしゃぐしゃになっていましたね。

金山氏…そういう状態の中、二人三脚で歩んできたのはトレーナーの方やスタッフの方々だったんですね。

金本氏…阪神タイガースには優秀なプレーヤーも多いけど、何が強いてチームを支えてくれる人たちが強い。球団トレーナーや理学療法士の方などみんなが僕の肩を少しでも良くしてくれようとしてくれて。その気持ちに僕をリハビリに奮い立たせてくれました。

金山氏…皆さんの支えがあつてこそだったんですね。

金本氏…本当にそうだと思います。ドクターが10人いれば10人とも手術しかなって言われていたような状態でしたが、手術なしでなんとかでもグラウンドに帰りたい。僕のために一生懸命リハビリに取り組んでくれる方の姿に、人の想いの力であつたかいないか。

金山氏…現役引退後に右肩の手術をされて、2007年オフには左ひざの手術もされたとのこと。

手術後は理学療法士やアスレチックトレーナーの方と共にリハビリをしていくことになると思うのですが、そういった資格を持った方々がいるのといないのでは全く違いますか。

金本氏…全く違いますね。僕たちはリハビリの知識がないので、本当に有難い存在ですね。

金山氏…フルイニング中に膝を2回手術していて、手術した年でも1年間試合に出ていたそうですね。

金本氏…そんな中で試合に出続けたのは周囲の支えがあつてこそ。手術してから1週間ほど歩けない生活が続いたんですが、それだけで足が3cm、4cmも細くなつて驚きました。



司会 金山泉氏
MBSアナウンサー。現在MBSベースボールパークで熱血実況中！

金山氏…チーム全体が優勝に向かつていく中で優秀な理学療法士やアスレチックトレーナーの方に出会うことは大切なことですね。

大阪人間科学大学では理学療法士とアスレチックトレーナーの資格を両方取得することができますが、この2つを同時に取るということは大きな意味があると言えそうですね。

金本氏…理学療法士の中でもトレーナーとして選手のサポートを経験したことがない人もいますので、資格と知識をあわせ持つ人はとても貴重な存在。阪神タイガースにも2つの資格を持ったトレーナーが実際に、様々な場面で重宝されるのでひっぱりだこです。

金山氏…いろいろな知識や資格を持っているということはそれだけ武器になりますね。

金本氏…人の倍必要とされているので、それだけ大変な仕事ではありますけど。

金山氏…21年間のプロ野球人生で何度も困難に打ち勝ってきた金本さんが、あらためて今、皆さんに一番伝えたいことはなんですか。

金本氏…大きな壁が目前に現れたとしても、それを困難と思わずいつも通り自分のペースで着実に前に進む。そうすると努力が続けた分だけ時間が解決してくれます。挑戦しないことには何も乗り越えられません。皆さんには夢を持って挑戦する姿勢を忘れないで欲しいですね。